

しろきや
名水白木屋の井戸 (東京都指定文化財)

📍 日本橋1-6



江戸時代に「白木名水」とうたわれた清水が湧出した場所です。正徳元年(1711)、呉服商を営む白木屋2代・大村彦太郎が私財を投じて井戸掘りに着手し、将軍家をはじめ諸大名にも献上するほどの良質な水が湧き出したといわれています。湧水の跡地付近には記念碑が立っています。

🏛️ 文化財 🏛️ 記念碑

郵便発祥の地 (中央区民文化財)

📍 日本橋1-18-1



日本の近代的な郵便制度が発足した明治4年(1871)に、郵便事業を統括する駅逓司と取扱機関の郵便役所が設置された場所です。新式の郵便業務(郵便箱や切手など)は、東京・大阪間でスタートしました。日本橋郵便局が立つ場所には、郵便制度を創設した前島密の胸像があります。

高島屋東京店 (国指定重要文化財)

📍 日本橋2-4-1



高島屋東京店は、昭和8年(1933)に高島屋と日本生命保険株式会社東京支店事務所(日本生命は昭和38年に転出)が入る建物として建設されました。建築図案競技で一等に選出された高橋貞太郎の設計案を基に、鉄骨鉄筋コンクリート造(地上8階・地下2階)の商業店舗として竣工・開店し、戦後は昭和26年(1951)から昭和40年(1965)に村野藤吾が増築を手掛けました。当初部分(高橋設計)と増築部(村野設計)の優れた意匠が調和した百貨店建築です。

いちこくばし
一石橋迷子しらせ石標 (東京都指定文化財)

📍 八重洲1-11先



安政4年(1857)に西河岸町(現在の日本橋一丁目・八重洲一丁目)の町人たちが建立した迷子情報を知らせる石標です。正面に「満よひ子の志るべ」とあるこの石碑は、左側(「たづぬる方」)と右側(「志らす類方」)にそれぞれ迷子や尋ね人の特徴を記した紙を貼って告知しました。

一石橋の親柱 (中央区民文化財)

📍 八重洲1-11先



外堀と日本橋川の分流点に架橋されていた一石橋の親柱です。大正11年(1922)に鉄筋コンクリート造アーチ橋として改架された時の親柱で、1年後に発生した関東大震災にも耐えた橋梁の一部です。外壁に花崗岩が使用されていた堅牢な旧一石橋の面影を今に伝えています。

歴史モノがたり

東京日本橋盛観 大正期



日本橋一帯のパノラマ写真を4枚続きの絵はがきにしたものです。この当時、日本橋のたもと近くに立っていた村井銀行の屋上から撮影したもので、関東大震災前の日本橋の様子が一望できます。日本橋から江戸橋方面へと広がる日本橋川北岸の魚河岸や土蔵造りのまち並み、日本銀行本店本館や日本橋北西詰に立つ赤レンガの帝国製麻ビル、目抜き通り沿いに立つルネサンス様式の三越呉服店などがひときわ目を引きます。

🔍 収蔵品アーカイブズ
<http://www.chuo-museum.jp>